

総務教育常任委員会資料

(平成29年4月21日)

【項目】

ページ

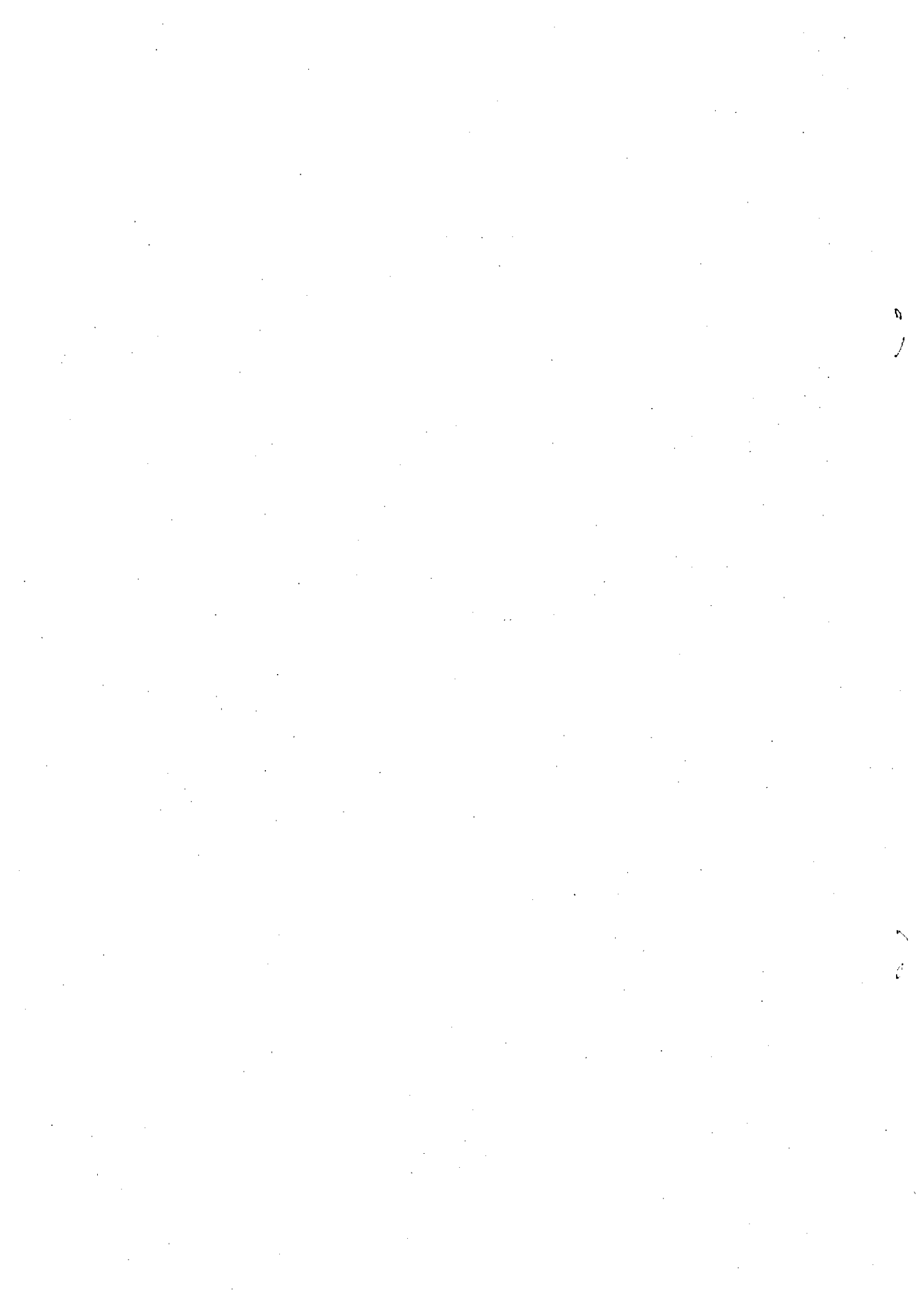
- 1 「震災復興活動支援センター」開所について

【中部地震復興本部事務局】・・・ 1

- 2 「第2回鳥取県中部地震復興会議」の開催結果について

【中部地震復興本部事務局】・・・ 2

鳥取県中部地震復興本部事務局



「震災復興活動支援センター」開所について

平成29年4月21日
中部地震復興本部事務局

平成28年10月に発生した鳥取県中部地震からの復興に向けた県民活動を支援するため、平成29年4月1日に「震災復興活動支援センター」を開所したので、その概要を報告します。

1 目的

鳥取県中部地震からの復興に向けた住民活動・民間活動を支援し、地域の元気づくり活動やコミュニティ・絆の強化を図り、震災前より元気な地域づくりを目指す。

2 設置場所等

- ・公益財団法人とっとり県民活動活性化センター内（倉吉パープルタウン2階）
- ・県が県民活動活性化センターに業務を委託（担当職員：1名）

※担当職員（白鳥孝太（しらとり こうた）主任企画員）の略歴

阪神淡路大震災、新潟県中越沖地震、スマトラ島沖地震、東日本大震災などでの被災支援活動に従事の経験あり。

3 業務内容

- ・NPO等からの復興等に関する相談・提案の受付及び対応
- ・NPO等が主催する地域を元気にする復興活動の事業計画や運営面、活動広報などの支援
- ・地域住民の復興に向け、市町と連携した地域ミーティングなど、復興活動のきっかけづくりの実施
- ・具体の支援活動を進めていくため、NPO等と被災者とのマッチング
- ・復興ボランティアネットワークの形成に向けた取組の実施

4 活動状況（開所から4月11日まで）

- ・相談対応：6件（地域、NPO等）
- ・主な相談内容：自主防災組織の立上げ、防災マップ、支え愛マップづくりの相談等
- ・伴走支援：2地区（自主防災組織の立上げ等）
- ・その他：復興ボランティアネットワークの形成、広報活動等

「第2回鳥取県中部地震復興会議」の開催結果について

平成29年4月21日
中部地震復興本部事務局

平成28年10月に発生した鳥取県中部地震からの復興に向けた現状、取組の方向性を共有し、官民の垣根を越えて連携する「第2回鳥取県中部地震復興会議」を開催したので、その概要を報告します。

1 概要

- (1) 日時 平成29年4月4日(火) 午後1時～2時35分
- (2) 場所 ホテルセントパレス倉吉
- (3) 出席者 中部市町長、住宅・商工・農林・地域づくり団体、知事、県の担当部長等
- (4) 概要

県から分野毎に復興に向けた現状と今後の取組を中心に説明した後、各市町村、団体等の取組状況についての報告、意見交換を行った。

各分野とも復興に向け概ね順調に進んでおり、平成29年4月1日には復興に向けた住民活動・民間活動に対して支援を行う「震災復興活動支援センター」も開設された。平成29年度中に目に見える形で復興を概成させることを確認した。

2 主な意見・状況

(1) 住宅修繕について

- ・天気も回復し、各業種とも修繕工事は順調に進んでおり、年内を目途に屋根の修繕を終了させたい。
- ・自治会単位での発注の取組も進んでおり、左官業協同組合では担当する全世帯(40世帯)の訪問及び見積りが終了した。
- ・12月9日に開設した住宅修繕支援センターへの問い合わせも少なくなってきた。(4月から平日のみに変更)
- ・今後、大量に出る撤去後の瓦・土の処分方法について関係機関と協議することとされた。

(2) 観光・商工について

- ・旅館業界では、3月に入り売り上げも過去最高を記録するなど、風評被害はほぼ払拭された。4月以降の継続した県の支援に感謝する。
- ・県版経営革新総合支援補助金等の支援について、予算を増額し対応していく方針とされた。

(3) 地域活動について

- ・三徳山の入山再開(4月18日)を全国に重点発信することとされた。
- ・震災後、地域で避難マニュアルを作成し、訓練を行うとともに、支え愛マップの作成も計画される地域が出てきた。

(4) 農林水産について

- ・ライスセンターや選果場の復旧については、出荷時期までに完了予定である。
- ・琴浦サーモン(仮称)のブランド化、梨の新品種「王秋」の栽培面積拡大を進めることとされた。

(5) その他

- ・倉吉市災害ボランティアセンターが3月31日に閉鎖となった。
- ・倉吉市学校給食センターが4月11日から再開される。